

ぶどう「シャインマスカット」の短梢栽培における適正着果量

ぶどう「シャインマスカット」は良食味の大粒種で、ジベレリン処理により無核となり、皮ごと食べられるため全国的に生産量が増加し、消費者の認知度も高くなっています。「シャインマスカット」は短梢せん定に適し、省力栽培が可能であることから、さらなる生産拡大が期待されています。そこで岩手県農業研究センターでは、既存の中粒種用短梢棚を利用した「シャインマスカット」栽培における適正着果量を明らかにしたので紹介します。

☆技術の概要

1. 主枝1mあたりの新梢本数5本では収量が低く、11本では収量が多いが糖度が低く、酸度も高い傾向となるため、主枝1本あたりの新梢本数は8本程度が適しています(表1)。
2. 1新梢あたりの着房数が多いほど収量は増加しますが、1.0房では糖度が低くなるため、1新梢あたりの着房数は0.8房程度が適しています(表2)。
3. 以上より、主枝1本あたりの新梢本数8本程度、1新梢あたりの着房数を0.8房程度にすることで、糖度17°以上、10aあたり1.6t程度の収量を確保できます。

表1 主枝1mあたりの新梢本数の違いが果実品質等に及ぼす影響(2014~2017年の平均±標準偏差)

新梢本数	LAI (指数)	房重 (g)	粒重 (g)	糖度 (°Brix)	酸度 (g/100ml)	果皮色 (CC指数)	収量 (kg/10a)	登熟率 (%)
5	0.9±0.1	486±46	11.4±1.2	17.9±1.1	0.37±0.04	3.4±0.4	1,106±269	90±4
8	1.5±0.1	528±53	12.9±1.7	17.8±1.3	0.37±0.06	3.1±0.4	1,916±164	91±13
11	2.0±0.3	455±59	11.3±0.8	16.9±1.2	0.47±0.06	2.9±0.3	2,316±235	96±5

注) 試験樹の概要: 2008年定植、短梢平棚、H型整枝、植栽距離4m×8m。1新梢あたり葉枚数: 20~25枚。

収穫期: 9月下旬。着房数は0.8房/1新梢とした。

LAI: 平成26年度岩手県農業研究センター果樹試験成績書より、(葉面積)y=23.1647x(新梢長)を用いて計算した。

果皮色: 山梨県作成シャインマスカット用カラーチャート(1~5)を使用した。

登熟率: 各試験区の新梢について休眠期に調査した。調査果数: 各区10果。

表2 1新梢あたりの着房数の違いが果実品質等に及ぼす影響(2014~2018年(2017年除く)の平均±標準偏差)

着房数 (房/1新梢)	房重 (g)	粒重 (g)	糖度 (°Brix)	酸度 (g/100ml)	果皮色 (CC指数)	収量 (kg/10a)	登熟率 (%)
0.6	548±38	12.7±0.6	17.7±1.2	0.34±0.08	3.0±0.3	1,414±291	93±2
0.8	556±76	12.6±1.3	17.3±0.9	0.36±0.11	2.8±0.2	1,887±198	91±6
1.0	577±31	12.7±1.1	17.0±0.8	0.39±0.11	2.6±0.2	2,357±209	92±4

注) 試験樹の概要等は表1に同じ。主枝1mあたりの新梢本数は8本とした。

☆活用面での留意点

1. 本試験では、既存の中粒種(「キャンベル・アーリー」等)用短梢棚を活用し、H型整枝とし、新梢は棚下に下垂させています。また、発芽後から収穫終了まで雨よけトンネル被覆を行い、7月中旬に被袋(白色袋)しています。
2. 果房は1房45粒、房重500g程度とし、収穫時の糖度17°以上を基準としました。
3. 着果過多は熟期が遅れ、発芽不良等の凍寒害が発生する恐れがあるので避けてください。
4. 詳細については岩手県農業研究センター園芸技術研究部果樹研究室(0197-68-4417)にお問い合わせください。